

令和5年度幼稚園学校評価（西野幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価		評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価（点数式）	評価（記述式）		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	年度当初に幼稚園の教育目標について共通理解し、各クラスの発達に応じた学級経営案を作成している。幼児の実態把握を行い、経験させたいことや育てたい内容について、毎月の指導計画や週案等で計画し、『計画・実践・反省』を繰り返す中で、教育目標の達成に努力している。	4	・経営について、「継続は力なり」で日々、職員が研修や研究など努力していることが良く分かった。園児と職員が一体となって取り組んでおり、コミュニケーションの大切さを感じた。		・毎月の指導計画を立てる前に、職員間で話し合いを持つことは、保育計画の共有や幼児の多面的理解に繋がった。継続した取り組みを進めていくことで、保育の充実、教職員の資質向上を図っていく。 ・教育課程の見直しを行い、職員が発達の理解を共通理解し、来年度の学級経営に繋げていくようにする。 ・地域の「ひと・もの・こと」との関わりを持ったり、積極的に地域行事に参加することで、地域のよさ、豊かさ、素晴らしい等を感じる幼児の育成に繋げていく。 ・一人一人の幼児理解や遊びの理解のために、終礼時や職員会等を利用した話し合いの時間を確保し、継続して進めていく。 ・行事のあり方や内容、育てたい幼児の姿を明確にして取り組んでいく。 ・幼小連携、保幼連携について、できることを工夫しながら、積極的に進めていく。その際、校、園と話し合ったり、園内の職員間で情報を共有したりしながら進めていく。 ○幼稚園目標について、時代の背景、市の教育大綱等を参考に、検討する。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	一人一人の幼児理解のために、職員会や終礼後の時間を利用して、複数の職員で話し合うことで、多面的な理解をすることができた。また、幼児教育指導員を招いた園内研修会を行うことで、幼児の発達や課題を明確にし、教師の援助のあり方について学ぶことができた。	3	・幼児の活動意欲を高めるための支援が、たくさん施されている。根底には、幼児の思いをありのままに受け止めて、その思いを生かす活動の選定、場作り、適切な声かけや、評価といった一連の流れや教職員の姿勢があると思う。		
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	職員間で実態や情報を共有したり話し合ったり、家庭との連携を密にしたりすることで、発達や課題等を共有し、共に育ちを支えることに努めている。必要に応じて専門機関との連携を図り、保護者が安心して子育てができる役割を果たしている。定期的に市の巡回相談を受け、適切な援助に生かしている。就学に向け、気になる幼児については、連絡会等で様子を伝え、察している。	3	・地域に出かける活動があることは、よいことだと思う。今後も地域の特色を生かした保育や地域行事の参加を進めていって欲しい。		
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	同和教育を基盤に据えた教育を心がけ、日々の生活の場面で捉えた指導を行っている。教職員の人権感覚を磨くために、市で行っている研修会に積極的に参加したり、出来事を職員間で共有し、職員自身の人権感覚の向上に努めている。	3	・行事については、大変工夫されており、幼児が遊びを通して学んでいる。		
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、行事のあり方について、その都度検討し、より幼児の育ちを意識した内容を考え、工夫して行うことができた。行事を通して、幼児に育みたいものを明確し、『ねらい』を持って取り組んでいる。	3	・幼小連携では、今後も相互に保育、授業の様子を見合う機会を維持していき、小学校の職員も見学に行くよう、働きかけていきたい。		
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	4年ぶりに校区内の保育園等の全年長児が集まり交流を行ったり、合同で里山体験を行ったりするなど、就学を意識した交流活動を行うことができた。小学校の運動会見学や児童による遊びの紹介をしてもらうことで交流でき、就学への期待を膨らませることになった。小学校から、園児の様子を見てもらったり、連絡会を通したりして、情報の共有に努めた。	3	○園の教育目標について、時代の流れ等に伴い、検討してもよいのではないかと考える。その際、市の教育大綱等を参考にするとよいのではないかと考える。		
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	保護者は、保育公開や行事や環境整備への参加率も高く、幼稚園に対し協力的である。また、コロナ禍にはできなかった地域活動が再開されたことにより、幼稚園の参加や園児との交流も再開したのも多く、積極的に参加、交流するなど、協力体制のもとで、様々な連携を進めることができた。	3	保護者アンケートの結果から、連携に対する保護者の意識の低下を感じる。また、地域でも、子どもの姿を見かけることが少なくなってきたり、核家族や預かり・学童保育利用の増加などが考えられ、連携の希薄化を感じる。		保護者や地域と連携しながら生活や遊びを進めてこられたと感じている。委員会活動のあり方や進め方については、役員や理事会で話し合いながら進めていくようにする。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	職員一人一人が資質向上への意識を持って、県や市が主催する研修会等に、積極的に参加した。また、園内では、来年度出雲市幼稚園教育研究大会の開催となるため、幼児の実態把握や課題を踏まえた研究主題を新しく定め、職員一丸となって研究を進めている。	4	普段の園児の様子から、研究が順調に進んでいることが分かる。		市幼研主催の研修会等に積極的に出かけたり、園内でも研究職員会や園内研修会を積極的に開催し、職員間の学びの場を増やし、自己研鑽に努める。また、市幼研大会の会場となるため、積極的に研究を深め、進めていく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	自分の分掌に責任を持ちながら、園全体がスムーズに進むように、気が付いたことを伝え合ったり、協力して作業したりするなど、職員間で協力して園務を行っている。	4	職員間のコミュニケーション、協力体制ができている。		日常的な職員間のコミュニケーションを図ることで、協働して、計画的に園務に取り組んでいけるようにする。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	保護者への緊急連絡は、マ・メールを利用することで、一斉配信し、迅速に対応できている。メールの確認に時間がかかる場合があり、保護者へ啓発している。感染症の拡大状況により、マスク着用、消毒などの対策を行い、感染拡大防止に努め、保護者からの理解と協力も得ている。また、避難訓練時に災害等について、実際の状況や情報に合わせて、訓練の大切さについて指導したりしている。	3	災害用の防災頭巾があると良いのではないかと考える。		防災頭巾の要望が出たことは、市とも相談して進めていきたい。学期ごとの避難訓練の充実にも努める。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月、安全点検を行い、可能な範囲での修繕を行いながら、必要に応じては、施設課へ対応をお願いすることで、安全に生活できるよう努めている。年に一回は、教育委員会から、修繕希望箇所の点検を行ってもらっている。園庭の環境整備については、地域や保護者の協力を得ている。	3	老朽化している箇所については、市への要望を継続していき、必要がある。広い園庭の管理について、地域の協力を得て進めていることは良いことである。		安全な生活ができるよう、毎月の点検で確認し、早めに修繕努力したり、場合によっては施設課と連携を図って進めていく。園庭の除草作業については、引き続き、保護者、地域ボランティアにお願いしていく。

※自己評価の評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する